

2017年2月22日 担当：福富 基城

Percutaneous Mechanical Circulatory Support Versus Intra-Aortic Balloon Pump in Cardiogenic Shock After Acute Myocardial Infarction.

Ouweneel DM, Eriksen E, Sjauw KD, van Dongen IM, Hirsch A, Packer EJ, Vis MM, Wykrzykowska JJ, Koch KT, Baan J, de Winter RJ, Piek JJ, Lagrand WK, de Mol BA, Tijssen JG, Henriques JP.

J Am Coll Cardiol. 2017 Jan 24;69(3):278-287.

背景：ショックバイタルの AMI は以前死亡率が高い。循環補助用心内留置型カテーテルデバイス (Impella) の使用は血行動態を改善することが知られる。

目的：本研究は Impella が IABP と比較してショックバイタル AMI の 30 日死亡率を減らすことができるかどうかを検討した。

方法：多施設オープンラベル前向きランダム化試験試験で、48 名の患者が Impella 群 (n=24), IABP 群 (n=24) に割り付けられた。ショックの定義は SBP<90mmHg, 強心・昇圧剤の使用、人工呼吸器の使用とした。

結果：30 日死亡率は両群で同等であった (50% vs 46%, p=0.92)。6 ヶ月後の死亡率も同等であった (50% vs 50%, p=0.923)。

結果：Impella はショックバイタルの AMI 患者において、IABP に比較して 30 日死亡率を改善しなかった。